

第3回京都府流域下水道事業経営審議会（開催結果）

1 日 時 令和3年2月2日（火） 午後4時30分～午後5時45分

2 場 所 ZoomによるWeb会議

3 出席者 委員 16名中15名出席

京都府 富山建設交通部長、市田建設交通部技監、永濱流域下水道事務所長
安田水環境対策課長 藤原水環境対策課参事 他

4 結果概要

- 京都府から以下の議題について説明し、審議。
 - (1) 京都府流域下水道事業経営戦略の策定
 - ①第2回経営審議会以降の修正とパブリックコメントへの対応について
 - ②桂川右岸流域下水道（雨水対策事業）いろは呑龍トンネルに係る事業再評価について
 - (2) 来年度以降の予定について
- 上記の議題については了承された。田中会長からは、今後、京都府流域下水道経営戦略については、この最終案をベースとして知事からの諮問に対する審議会の答申とすることとされ、審議は終了。

5 主な意見

<投資部会のコメント：田中投資部会長>

投資部会では、今後の事業実施に向けて下水道財源の確保が極めて重要であること、財政負担の観点から投資計画について府民からの理解を得る必要があること、パブコメの件数が少ないことも踏まえて広報活動のさらなる推進が必要であることなどが意見として出された。また、いろは呑龍トンネルの再評価については、事業の継続が妥当であると判断した。

<財政部会のコメント：西垣財政部会長>

財政部会では、市町も様々な課題を抱えており、例えば雨天時浸入水のような問題には府と市町で連携して取り組んでいただきたいということ、今後の改築や投資に係る市町負担金に関して市町と十分協議をし、それらが住民への理解とサービス水準の向上につながるようなよい連携を図って欲しいということ、アセットマネジメントの考え方も導入して良好な状態で資産価値を高めるような運営をして欲しいといったことなどが意見として出された。

(佐藤裕委員)

来年度以降の予定として、この市町負担金の見直しが令和6年まで予定されており、府の流域下水道とともに市町の経営にも関わるため、綿密に市町と調整をお願いしたい。さらに、市町との協議の際には、単純に市町負担金の問題と狭く捉えることなく、多くの下水道をめぐる経営課題についても共有しながら解決できるような会議の場としてほしい。

(藤木委員)

経営戦略最終案の第7章の進行管理（モニタリング）について、「経営の現状・課題を分析」とあるが、経営指標を用いた分析結果が、市町負担金に係る流域市町との協議や府民への広報展開などの充実化につながってくる。また、単純に財務諸表だけの分析ではなく、今後は、アセットマネジメントの意思決定に使える指標や、リスクやパフォーマンスなどを指標化して加味していくことも研究段階ではあるが、取り組んで頂きたい。是非、京都府の流域下水道事業が全国のモデルとなるように期待している。

(堀井委員)

木津川流域にある城陽市では、令和5年度に全線開通する新名神高速道路やスマートインターチェンジ、その近くでショッピングモールが工事中であり、将来的には物流センターも建設される予定である。大規模なプロジェクトが進行しているので、地元の事業者が関わられるような形をお願いするとともに、タイムリーな投資をしてほしい。経営戦略では、処理施設の増設、老朽化や耐震化など必要な投資に多額の費用が試算されているので、財源を確保する上で下水道料金が上がることも理解できる。市町負担金についての十分な説明と、できるだけ事業所や家庭への負担が大きくなるような配慮をしていただいた事業運営をお願いしたい。

(安田委員)

桂川右岸地域は、水害に悩まされていた地域で、都市化が進むにつれて遊水地がなくなってしまった地域でもある。私も幼少の頃から浸水を経験しており、いろは呑龍トンネルの効果は身をもって感じており、南幹線の供用によってさらなる効果に非常に期待している。今後の心配として、20年以上経過している北幹線1号管渠では地下水の浸水というか漏水が非常に多くなっており、対応をお願いしたい。今後もこのようなことが発生してくると思うので、維持管理費用についても費用と効果を十分考えていただき、関係者の了解を得てほしい。

以上